



NEWS

第23回

患者さんの視点に立った医療を考える委員会について

総務課

6月16日(木)に「第23回 患者さんの視点に立った医療を考える委員会」を開催しました。この委員会は、地域住民等との意見交換を実施し、地域の声を病院運営に反映させることを目的に設置した委員会で、当日は外部委員6名の方を含む13名の委員が出席しました。

冒頭、病院長より「本委員会は一方通行ではなく、患者さん側の視点に気づくために立ち上げているので、忌憚のないご意見をいただきたい」との挨拶がありました。

議事では外部委員の方から、オストメイトトイレの充実や、香水の匂い等について気分が悪くなることもあるので配慮していただきたいなどの意見があり、病院長からは、患者さんからみれば良いと思わない方は多いと思うので、周知徹底を図りたいとの説明がありました。

また、患者満足度向上WGの報告については、大きな質疑応答のチラシを作成し、待合室のモニターに映してアンケートの集計結果を患者さんに分かりやすく還元していることなどについて、説明がありました。

その後も、委員からは活発な意見が出されました。

病院長より、「今後も一致団結してよい医療を提供したいと考えているので、率直な意見を引き続きいただきたい」との発言で委員会は終了しました。

今後も引き続き、本委員会を開催し、患者さんの視点に立った病院運営を推進してまいります。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年 8月15日～9月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
6/1(水)～ 8/31(水)	令和4年度 第1回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
8/21(日) 13:30～15:50	令和4年度 認知症研修会 認知症サポート医フォローアップ研修会	ZOOMによる オンライン配信	一般 医療 本学	島根大学医学部附属病院 基幹型認知症疾患医療センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



CONTENTS

・放射線医学講座 教授就任のご挨拶

・生化学講座 代謝生化学 教授就任のご挨拶

・第23回 患者さんの視点に立った
医療を考える委員会について

・研修会・講演会・セミナー開催情報

放射線医学講座 教授就任のご挨拶

放射線医学講座 教授 かじ やすし
楫 靖

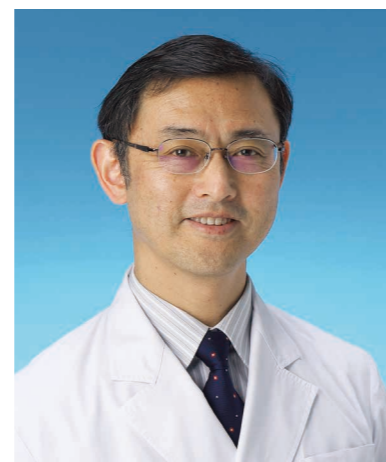
島大病院ニュースをご覧の皆様。本年8月1日付で放射線医学講座教授を拝命いたしました楫靖と申します。紙面をお借りして就任のご挨拶申し上げます。

私は大田市に生まれ、1989年に島根医科大学を卒業し母校の放射線科に入局、約10年間島大病院で勤務しました。その後、天理よろづ相談所病院、神戸大学医学部に移り、2006年より先月まで獨協医科大学医学部(栃木県)の放射線医学講座主任教授として、診療・教育・研究に携わりました。

診療科としての放射線科は、画像診断、IVR治療、放射線治療が3本柱となりますが、放射線治療科に玉置准教授がいらっしゃるの、前2者を主として担当します。加えて、中央部門である放射線部の管理も重要です。特に、近年医療被ばくに関する法令が新しくなり、厳格な対応が求められています。画像診断に関する技術も進歩しており、被ばく低減と画質向上を両立させた装置や、人工知能技術を取り入れた装置もあります。放射線部の装置を使いこなして、皆様に判断の材料となる情報をお届け致します。

また、県内には明日の島根を担う研修医、専攻医が数多く勤務しています。複数の施設と共同して画像カンファレンスの場を設け、情報を共有し、高め合う生涯教育の機会を提供できないか、思案中です。

画像検査がこれまで以上に診療に貢献できるよう、皆様にはご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



問い合わせ先 放射線医学講座 医局 TEL:0853-20-2289

生化学講座 代謝生化学 教授就任のご挨拶

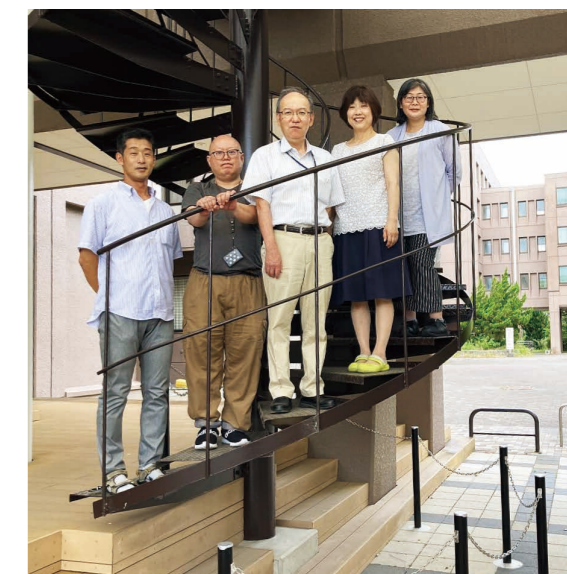
生化学講座代謝生化学 教授 みやぎ さとる
宮城 聡

2022年7月1日付けで、前土屋美加子教授の後任として、医学部生化学講座代謝生化学の教授を拝命致しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は2001年に岩手大学で学位取得後、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター、千葉大学医学部、コペンハーゲン大学で、組織の形成・維持に働く細胞「幹細胞」の研究を行って参りました。2018年に島根大学医学部生命科学講座に赴任し、主に医学部の初年度教育(医科基礎生物学と自然科学実習)を担当しました。生化学講座では、1年生の分子細胞生物学Iと生化学実習、2年生の生化学などを担当しています。分子細胞生物学・生化学は基礎医学と臨床医学を結ぶ重要な科目です。これらの授業・実習を通じて、医学部生の基礎医学の習得と臨床医学への移行をお手伝いしていきたいと考えております。

研究面では、幹細胞の異常がさまざまな病気の原因となることが明らかにされつつあります。私は、血液幹細胞とその周辺細胞の機能異常が、どのように白血病を引き起こすのか?に興味を持ち研究を行っています。

出雲に移り住み5年目になり、厳しい冬・曇天・盛夏早朝の雨にも大分慣れてきました。都会過ぎず、田舎過ぎない出雲の街は、子供達を育てるには良い環境だと思います。この出雲の地から、臨床に繋がる研究成果を発信できるよう努力してまいりますので、ご指導ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



写真左端 宮城 聡先生



ご報告



ご報告

慢性腎臓病(CKD)対策の最新の動向と当科の取り組み

腎臓内科 診療科長 准教授 伊藤 孝史
いとう たかふみ

CKD(慢性腎臓病)とは、腎臓の働きが健康な人の60%以下に低下するか、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が続く状態をいい、腎機能が悪化すれば透析療法や腎移植を受けることになったり、心筋梗塞や脳卒中といった心血管疾患の重大な危険因子になっています。

2018年7月に厚生労働省が「腎疾患対策検討会報告書～腎疾患対策の更なる推進を目指して～」をとりまとめました。それに対応するように、腎臓病に関する普及・啓発、疾患克服、社会貢献を目的として、「特定非営利活動法人日本腎臓病協会」が2018年2月に設立されました。さらに、2019年から2021年までの3年間、伊藤診療科長が腎疾患政策研究事業の研究代表者となり、島根県はもちろんのこと、全国でのCKD対策の推進に取り組んでいます。

島根県内では、島根県慢性腎臓病対策協議会を中心に、年に2回の啓発活動を行なっています。3月には世界腎臓デー(毎年3月の第2木曜日)、9月には市民公開講座を開催していましたが、ここ3年は新型コロナウイルス感染拡大で対面の普及啓発活動は実施できていません。しかし、世界腎臓デーの際には懸垂幕(島根県、出雲市)やロールアップバナー(島根県内8市、11町村に配布)(写真1)を掲揚したり、普及啓発動画を作成するなど、新しい方法を用いて普及啓発活動を行っています。当院では、待合ホールや内科外来のモニターで動画を上映しています(写真2)。

これからも、「腎臓病の克服」に向けて、最善を尽くしていきたいと考えています。

写真1 懸垂幕



ロールアップバナー

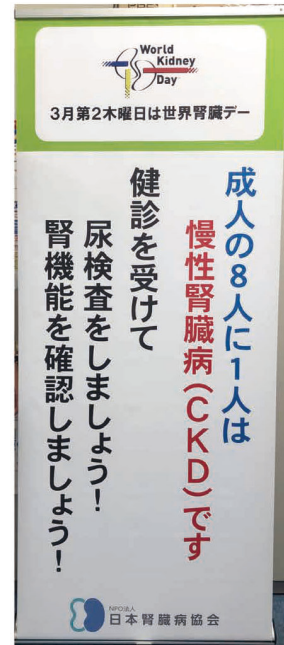
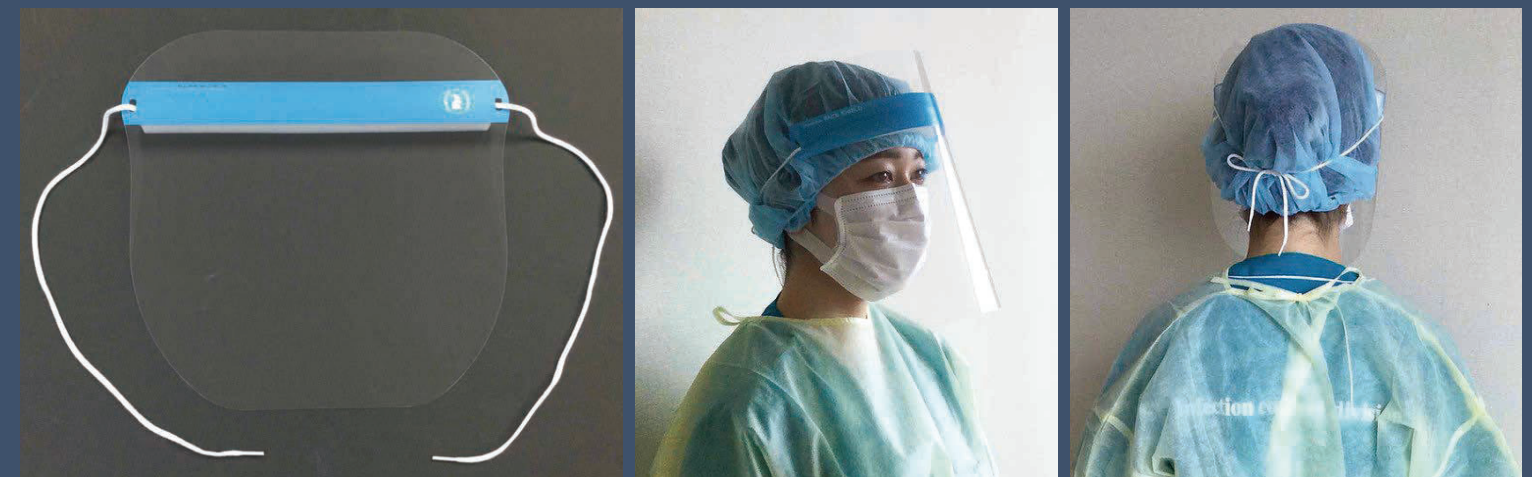
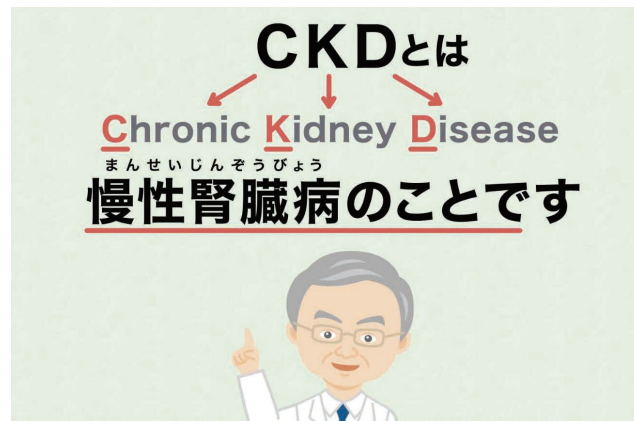


写真2 普及啓発動画(当院待合)



開発した医療用フェイスシールド 【知的財産権】 意匠登録 第1697768号 登録日 令和3年10月4日

医療ニーズから誕生した 新しい高性能「医療用フェイスシールド」

地域未来協創本部 地域医学共同研究部門 教授 中村 守彦
なかむら もりひこ

当院(感染制御部)と出雲市の株式会社河内との共同研究により製品開発した「医療用フェイスシールド」を同社が販売します。当院において、新型コロナウイルス感染症等の検査・治療にあたる多くの医療従事者(医師・看護師など)が既に使用して、機能・安全性を確認しています。

多種類のフェイスシールドが市販されていますが、特に医療用キャップを被った頭部に安定して固定できる資材は存在しません。そこで、頭部への固定に布紐を使用し、その末端に留め具を備えて着脱を容易にした全く新しい「医療用フェイスシールド」を産学共同で開発しました。全て可燃性の素材で構成されており、使用後は汚染したフェイス面に触れることなく安全に廃棄できる、環境と医療従事者にやさしいフェイスシールドです。

長時間装着しても、ゴムバンドのように頭部を締めつけて痛くなることはなく、フェイス面は飛沫防止に必要な十分な医療デザインを創出して安全を確保し、フェイス素材(PET)は0.2mmと極薄で視認性は抜群です。

なお、本製品については、共同で意匠登録を終えています。写真は当院のシンボルマーク入りですが、マークのない製品も販売します。

地域未来協創本部・地域医学共同研究部門は、医療現場のニーズに基づき医学部・附属病院と連携して地域医療に資する満足度の高い「モノづくり」を進めています。

問合せ先 地域未来協創本部 地域医学共同研究部門 TEL: 0853-20-2912





ご報告



ご報告



リハビリテーション専門職の 卒後教育支援(レジデント)制度を開始します

リハビリテーション部 療法士長 えくさ のりまさ
江草 典政

この度、当院のリハビリテーション部門にてリハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)の卒後教育支援制度を開始することとなりました。この制度では国家資格を有する専門職(新卒者を含む)を当院の研修生として採用し、基礎医学から医学管理、そして専門的なリハビリテーション技術を習得できる、およそ2年間の教育プログラムを提供します。

レジデント (有資格者)

- 臨床実践 (On the jobトレーニング)
- メンターシップ制度
- e-learningシステムによる学習
- 高度急性期プログラム
- キャリア教育・コーチング
- 学術・研究支援
- 他職種とのチーム診療経験

医療専門職としての生涯を支えてくれるプロフェッショナリズムを学ぶ

リハビリテーションは疾病や障害を有し、不安と共に人生の岐路に立つ方に対して、機能回復や生活機能支援、環境整備、情報提供などのあらゆる手段を講じて未来をカタチにする事に責任を負う職務です。その分、求められる技術は基礎医学や医学管理、療法技術のみならず対人援助技術、チームビルディング、社会保障制度への知識など多岐に渡ります。

しかし、この分野は卒前教育の比重が高く、卒後は自己研鑽に委ねられる部分が多いという課題を有しています。

当院では、この社会課題に対してこれまで私たちリハビリテーション部門で構築してきた教育プログラムを広く社会に還元するために本制度を企画しています。募集時期や詳細については現在調整中ですので、決まりましたら医学部リハビリテーション医学講座/リハビリテーション部 HP 等で公開いたします。



環境整備ボランティア活動を行いました

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

当院の環境整備は、各種団体のボランティアの方々に定期的に行っていただくほか、業者に委託していますが、5年前から職員のボランティアによる環境整備も有志を募り、実施しています。

今回は、6月に実施した2回の職員ボランティア活動のご報告です。

2022年6月11日(土)に、椎名病院長や鬼形学部長をはじめとする教職員総勢56名により、臨床研究棟・第二研究棟周辺の除草・剪定などの清掃活動を行いました。医学部研究棟周辺はさっぱりとした景観となりました。その後C棟5階緩和ケア病棟の花壇の清掃と、花苗の植栽を行いました。屋上庭園の風景を見る機会の多い入院患者さんに、色彩豊かな花苗をどのように配置すれば楽しんでもらえるかを想像しつつ、楽しく作業を行いました。

また、6月25日(土)に行った環境整備では、教職員に加え、嬉しいことに多数の学生の参加もあり、総勢54名で医学部慰霊碑周辺を中心に大会館周辺の樹木の剪定、除草、落葉拾いに汗を流しました。折しも季節の移行により落葉や草木の伸長がみられ、蒸し暑い天候でしたが、学生有志の奮闘もあり、こちらも気持ちの良いすがすがしい景観となりました。

今後も当院の美観を維持するボランティア清掃活動にご理解・ご協力よろしくお願い致します。





ご報告



脳外科手術における脳血管内治療について ～脳動静脈奇形～

高度脳卒中センター 教授 はやし けんたろう 林 健太郎

脳卒中の外科手術は脳内の血腫を除去したり、出血した血管にクリップをかけて出血を止める手術を行います。脳は精緻な組織であり、主に顕微鏡を用いて手術を行います。脳血管内治療はカテーテルを用いた治療ですが、血管の中に詰まった血栓を除去して再び血液が流れるようにしたり、出血した部分を詰めて止血したりします。脳卒中の治療ではより有効と思われる方法を選択しますが、時には一つの病変に対して両方の治療法を用いることがあります。

脳動静脈奇形は先天性に脳の中に異常な血管の塊がみられる疾患です(図1)。血管の塊から出血して発症します(図2)。比較的若い患者さんに多く、脳卒中の中でも最も治療が難しい疾患の一つです。主に摘出術を行います。手術中にも血管の塊から出血しやすいため、出血多量となったり、手術時間が丸一日かかったりすることもあります。そこで、脳血管内治療で予め血管の塊を詰めておき、摘出しやすい状態しておく術前塞栓術が行われます。近年はカテーテルや塞栓物質(図3)が改良されて塞栓術がより有効にできるようになっています(図4)。当院高度脳卒中センターでは外科手術グループと血管内治療グループが協力して患者さんの回復のためにベストを尽くしています(図5)。

問合せ先 内科学講座 内科学第三 事務室 TEL: 0853-20-2198

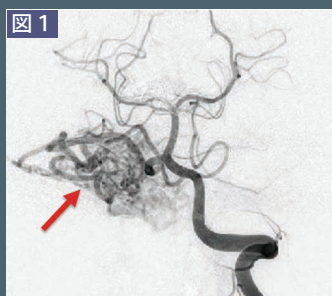


図1 脳血管造影で脳動静脈奇形を認める。

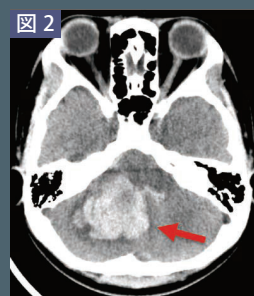


図2 頭部CTでは脳内出血を認める。

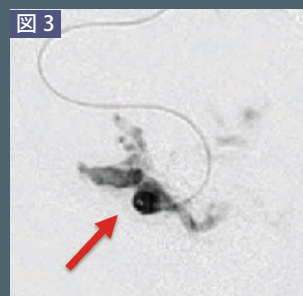


図3 カテーテルから塞栓物質を注入している。

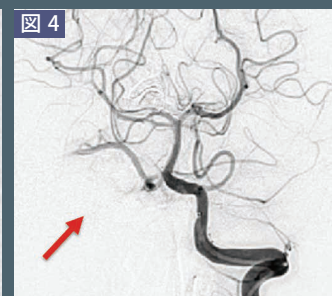


図4 塞栓術後では脳動静脈奇形は描出されていない。

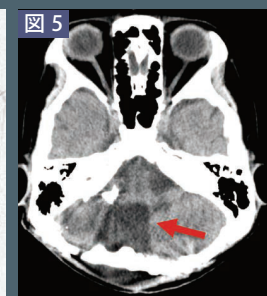


図5 手術後のCTでは動静脈奇形は摘出されている。



ご報告

ロボット支援下食道癌・胃癌手術の プロクター(手術指導医)に認定されました!!

消化器外科 診療科長 准教授 ひらはら のりゆき 平原 典幸

ロボット支援下食道癌・胃癌手術のプロクター(手術指導医)に認定されました。これによりロボット支援手術を導入する医療機関での技術指導などができるようになり、新たな執刀医を育成することが可能となりました。

ロボット支援手術認定制度とは、日本内視鏡外科学会が円滑且つ安全なロボット支援手術の導入に寄与するよう制定したもので、術者として標準的な技量を取得し、他者によるロボット支援手術を円滑且つ安全に指導できる(プロクターリング)指導者(プロクター)を認定するものです。両領域の手術のプロクターは全国でも19名と少ないですが、2022年5月1日に両領域手術のプロクターの認定を受けました。

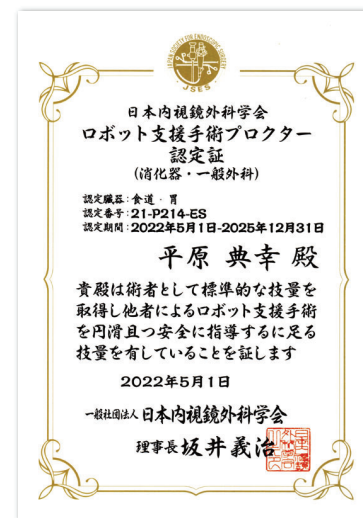
ロボット手術:フルハイビジョンの三次元画像にて微細解剖を認識しながら、手振れを完全に制御した多関節機能を有する鉗子を用いて精緻な手術が可能です。これらのロボットの利点を活かすことで手術の難易度を下げ、術後合併症の発生率を低下させ、根治性が向上することが期待されます。

ロボット手術の成績:これまでにロボット支援下食道切除術を40例弱、ロボット支援下胃切除術を50例弱行って来ましたが、ロボットに起因する合併症は認めておらず、全ての術後合併症の発生率も従来の鏡視下手術と比べ低率であり、安全で確実な手術が行えております。

今後の展望:ピロリ菌感染の減少に伴い、胃噴門部癌および食道胃接合部癌の症例が増加してくることが予想されます。この分野の手術操作は非常に煩雑ですが、安全・確実に行うにはロボット支援下手術が非常に有用です。

患者さんにとって最良と考えられる医療の提供を心がけておりますので当科まで遠慮なくご相談下さい。

問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384





ご報告

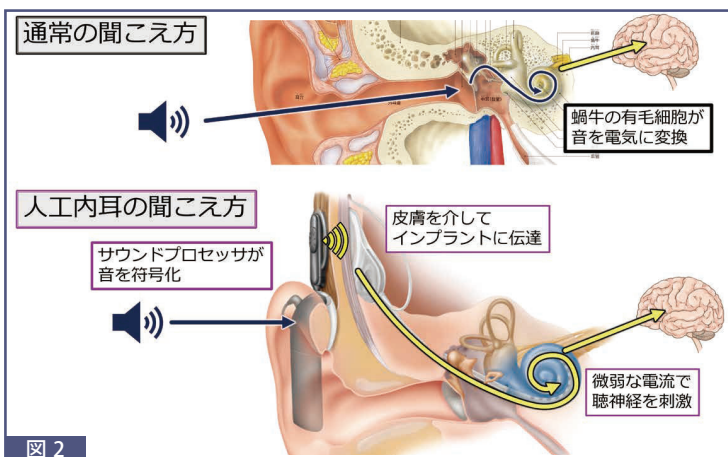
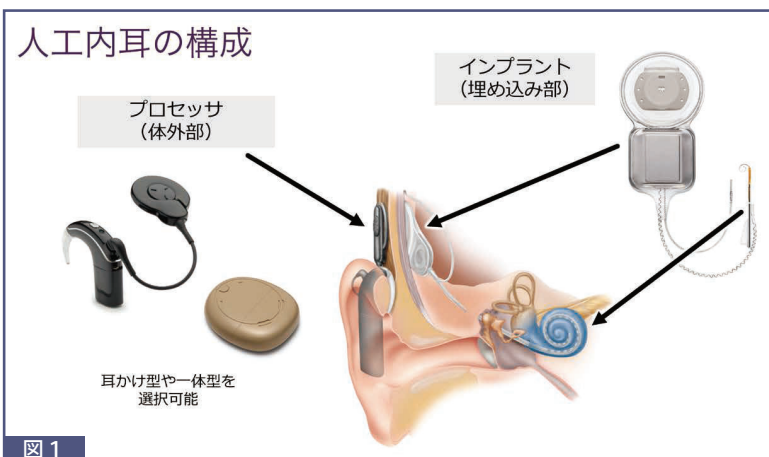
人工内耳による高齢者の聴力再獲得

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科長 教授 さかもと たつのり
坂本 達則

人は誰しも年齢とともに聴力が低下しますが、進行して高度難聴になればコミュニケーションに困るだけでなく、警報音が聞こえにくいために安全確保に支障が出たり、社会的に孤立したり、認知障害の誘因の1つになることも知られています。加齢に伴う難聴に対しては補聴器を用いることから開始しますが、補聴器でも十分な聴覚コミュニケーションが得られない場合には人工内耳が適応になります。

人工内耳は、手術によって埋め込む「インプラント」と、体外装置である「サウンドプロセッサ」から構成されています(図1)。通常、音は外界から外耳道に到達し、鼓膜・耳小骨を振動させ、蝸牛の中の有毛細胞を振動させると活動電位が発生し、聴神経が刺激されます。人工内耳では、音はサウンドプロセッサで符号化され、皮膚を介して電磁誘導でインプラントに伝達され、蝸牛の中に挿入された電極が聴神経を刺激します(図2)。高齢者では、約1ヶ月後の音入れの時にはロボットみたいな音に聞こえますが、半年から1年かけてマッピングを徐々に調整することで、脳の可塑性によって言葉としてわかるようになってきます。

高齢者にとって、言葉によるコミュニケーションを再獲得することは著しいQOLの向上になりますが、実際にはあきらめてしまっている方が多数おられます。当科で適応判断、手術、術後のマッピングまで対応しておりますので、このような患者さんをご紹介いただき、人生の再獲得のお手伝いをさせていただきます。



問合せ先 耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来 TEL: 0853-20-2390



ご報告

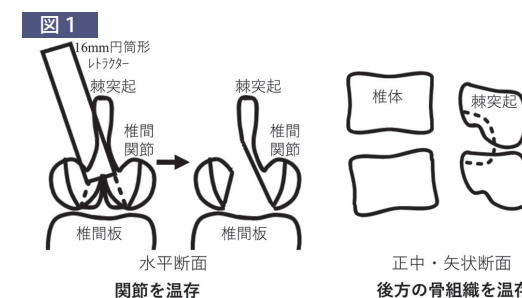
内視鏡を使ったせぼねの手術について

整形外科 診療科長 教授 うちお ゆうじ
内尾 祐司
助教 こうの みちはや
河野 通快

くびから腰のせぼねの手術治療を担当する分野は「脊椎脊髄外科」と呼ばれます。当院は脊椎脊髄外科専門医基盤研修施設に認定され、脊椎脊髄外科指導医を含む専従医師3名(河野通快、真子卓也、永野聖)で診療に当たっており、難治性の脊椎脊髄疾患に対する診療体制を構築しています。

せぼねに関連した症状として、「腰痛」や「あしの痛み・しびれ」があり、太ももの裏を通りあしへ走る痛みやしびれを「坐骨神経痛」と呼びます。「坐骨神経痛」の主な原因疾患として、「腰椎椎間板ヘルニア」と「腰部脊柱管狭窄症」があります。

これらの疾患に対する従来の手術治療は大きな皮膚切開が必要でしたが、近年では脊椎内視鏡手術と呼ばれる体の負担が少ない方法が開発されています。当院では和歌山県立医科大学から技術指導を受け2012年から内視鏡手術に取り組み、2022年6月までに400例以上の経験を蓄積しています。また、日本整形外科学会の審査をクリアした脊椎内視鏡下手術技術認定医が在籍し、手術治療において指導的医師の役割を果たしています。脊椎内視鏡手術は2cm未満の皮膚切開にとどまり、筋肉のダメージが抑えられるため術後早期の痛みが少なく、1週間から10日程度での自宅退院が可能です。このように脊椎内視鏡手術は小さな負担でピンポイントに治療ができることが最大の利点といえます。



腰部脊柱管狭窄症に対する除圧術では正常な骨・関節が温存されます。



高画質モニターに術野が大きく映し出され、全員で確認できます。



特殊な専用器具を多数使用して内視鏡手術を行います。

問合せ先 整形外科外来 TEL: 0853-20-2385





ご報告

発達障がい者支援マップ 島根



気づく



支える



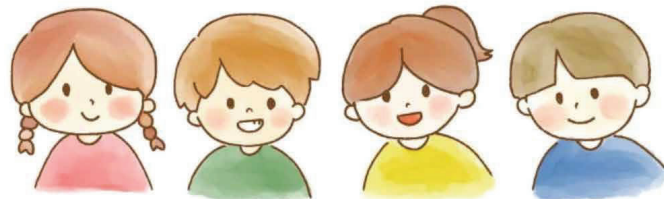
つなげる



お問い合わせ

個性を活かす、
まっすぐ生きる。

～ 気づいて、支えて、つながる社会へ～



『発達障がい者支援マップ 島根』のリニューアル

子どものこころ診療部 部長 ^{たけしたに} 竹谷 ^{たけし} 健
公認心理士 ^{いとう} 伊藤 ^{てるたか} 晃崇

子どものこころ診療部は、発達障がいを持つ子どもの支援情報をまとめたホームページ『発達障がい者支援マップ 島根』をリニューアルし、県内自治体の支援情報や支援機関の情報を充実致しました。

これまでは発達障がいの支援に関する一般的な情報や支援方法を紹介して参りましたが、島根県の地域性を反映できておらず、「活用しにくい」という声を頂いておりました。そこで島根県、県内自治体、支援機関のご協力のもと、各自治体の支援情報、支援機関の特色について情報をいただき、これをホームページに一元的にとりまとめることで、地域の皆様が身近な支援に繋がりがやすくなるようにしました。

例えば、「学校の通級の仕組みがわかりにくい…」との声には、文部科学省が公開している情報『日本の特別支援教育の状況について』だけでなく、島根県教育庁特別支援教育課が作成している『島根県の通級による指導の充実のために』も合わせて掲載し、国の情報と県の情報を説明しています。

その他にも、ホームページでは『気づく』『支える』『つなげる』の3つの視点で、次のような情報を紹介しています。

気づく・・・発達障がいに関する基本的な情報

支える・・・県内の支援者からいただいたノウハウ

つなげる・・・悩み事別の県内の支援情報や福祉施設の情報

多くの皆様にご活用いただき、心の問題を抱える子どもたちとご家族だけでなく支援する学校の先生や療育担当の方々などにお役に立てれば幸いです。

問合せ先 小児科 子どものこころ診療部 TEL : 0853-20-2220

ホームページ



お知らせ

「もの忘れ外来」のご紹介

認知症疾患医療センター センター長 ^{ながい} 長井 ^{あつし} 篤

当院のもの忘れ外来では、地域のかかりつけの先生からの紹介のもと問診、診察、認知機能検査、血液検査、頭部MRI・脳血流シンチ(SPECT)等によって、認知症の鑑別診断と、それに基づく初期対応、治療、行動心理症状への対応等を行っています。すべて予約診療としており、脳神経内科と精神科神経科のもの忘れ外来初診枠(表)の中でより早い日時のほうで予約を取らせていただいています。脳神経内科と精神科神経科のどちらの担当医師も同じように鑑別診断、治療導入を行っておりますので、患者さんにご説明いただきますようよろしくお願いいたします。

もの忘れの診断を行うためには、以下のもの忘れ外来のながれ(図)のように初診を含めて3回の受診をお願いしています。

なお、当外来は診断、治療導入のための専門外来です。原則として長期の継続通院治療は行っておりません。外来受診後はかかりつけの先生に内服の処方などをお願いさせていただいております。

予約状況が流動的で、お待たせすることがございましたが、現時点では早めの予約が可能となっております。受診に関してご相談があれば、センターのスタッフが対応しておりますので、患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

表 もの忘れ外来初診枠

曜日	診療科	枠数	診察場所
第2 水曜日	精神科神経科	2	1階・外科外来
第4 水曜日		1	
木曜日	脳神経内科	2	1階・外科外来
金曜日	精神科神経科	1	3階・精神科神経科外来

問合せ先 認知症疾患医療センター TEL : 0853-20-2630

図 もの忘れ外来のながれ

